

# 学校評価アンケート結果報告

平成 25 年 2 月  
大阪高等学校

本校では、よりよい学校づくりを目指して改革を続けています。教育の環境整備と質的向上を図りつつ、教育目標の達成を目指した様々な取組を重ねてまいりました。今般、その成果を確認するとともに更なる改善に向けた課題形成を行うため、昨年度に引き続き学校評価アンケートにご協力をいただきました。集計結果に分析を加え、学校改革・教育改善の進行状況をお伝えすべく本書面をまとめました。何卒ご高覧賜りますようお願い申し上げます。

学校長 岡本 博

## 凡例と集計方法について

凡例：■ そう思う ■■ どちらかといえばそう思う

集計結果は、特に断りがない場合、「わからない」を除いた有効回答を分母とした百分率で表示しています。合計の不一致は、四捨五入のためです。今後も引き続き、保護者の皆様にご協力をいただき、十分なご判断をいただけるよう情報発信の充実<sup>1</sup>に努めてまいります。

本校では、建学の精神「全人教育」のもとで、一人ひとりの生徒が「正しい生活習慣」「将来と結びつけた行動選択」「共生の資質」「自律的な学び」を獲得できることを教育活動の重点項目として位置づけています。本アンケートでは、20 の質問を通じ、如上の重点項目の達成状況を、生徒、保護者、教員それぞれの視点で評価するとともに、各々を達成するための具体的な施策たる教育活動や取組が十分に機能して所期の目的を果たしているかどうかを点検いたします。また、生徒、保護者のニーズの所在も明らかにすることで、今後の改善資源の最適な配分を探りたいと思います。

## 重点項目の達成状況

現在の形での学校評価を導入した時点と比較してみると重点項目のすべてにおいて肯定的な回答が占める割合が上昇しています。必ずしも毎回大きく進歩というわけには参りませんが、より良い指導を目指した試行錯誤の中で、取組は徐々に成果を結んでいるようです。

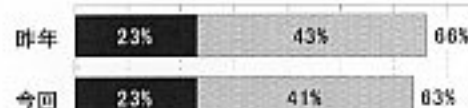
Q 保護者の目から見てお子様は、正しい生活習慣を身につけ、あるいは維持していますか。



<sup>1</sup> 回答確保は、また回を追うごとにほぼ全ての項目で減少しています。引き続き、情報発信を徹底し余さずご判断を頂けるようにいたします。

昨年度は肯定的な回答を前年から 4 ポイント増やしたのに対し、今回は昨年の水準を維持するに留まりました。更なる改善に向けて、生徒一人ひとりについて学習を中心とする生活をより正確に把握する仕組みを整備いたします。教科担当や部活動顧問が観察で得た情報をクラス担任に集約することと併せ、必要な指導を適切に且つ時を逃さずに行える体制を整えます。

Q 保護者の目から見てお子様は、自分の将来と結びつけて今なすべきことを考えられるようになりましたか。



残念ながら前回に比べて 3 ポイント下げ、一昨年度を僅かに上回る水準に後退しました。教員の側でも成果は十分に出ていないとの見方が優勢でしたが、符合する結果を得て、問題意識の共有が進みました。

日々の生活を振り返る機会を充実させるなかで、生徒が「これまでになしてきたこと」「これからなすべきこと」を客観化するきっかけを今まで以上に多く付与することで改善を図っていく所存です。

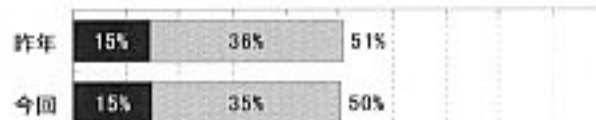
Q 保護者の目から見てお子様は、立場の異なる相手の意見にもちゃんと耳をかたむけるようになりましたか。



全学年で昨年を上回る良好な評価となりましたが、とりわけ 1 年生、2 年生で大きな改善が見られました。

肯定回答の大半に「どちらかといえば」が付くことの解消は急務です。生徒会活動などの生徒同士が議論を交わす場面や、担任との面談などを機会とし、互いの立場の違いを踏まえたコミュニケーションを適切に行う力の養成に取り組みます。

Q 保護者の目から見てお子様は、自分で立てた計画に沿って学習を進められるようになりましたか。

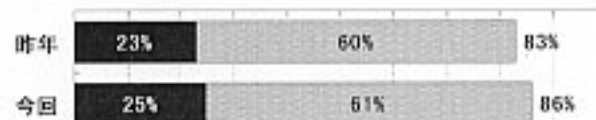


昨年度と同じ水準に留まりましたが、中だるみを取り沙汰されがちな2年生では昨年度よりも高い評価を得ており、入学から卒業までの緩みのない指導は実現に近づいたと思われます。他学年においても否定的な回答の絶対数は僅かながら減りました。自律的な学習を促すべく、日々の授業を通じて学習の目的を深く理解させるとともに、学習方法の確立に向けた指導の強化を図ります。また、宿題・課題も“学びの意義”を感じ取り易いものとなるよう見直しを図っています。

## 教育活動、学習・進路指導

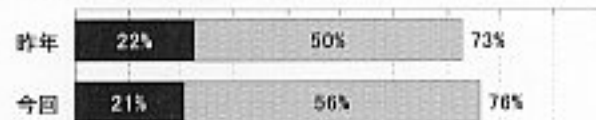
教育課程、学習指導、進路指導は生徒一人ひとりが未来を拓くための“教育活動の柱”です。未来を拓く努力の中で日々感じ取る手応えこそが生活規律、行動選択、自律学習といった重点項目の実現に繋がります。

Q 様々な進路希望に対応できるよう、教育課程(選択科目など)や教材は適切に整備されていると思われますか。



昨年度を上回る結果です。大小の改善を重ねてきたことに加え、進路希望に応じたきめ細やかな履修指導に注力したことが数字に表れたと考えます。大学入試の多様化や社会の変化のなかで、生徒の抱く進路希望はより幅広いものになると思われますが、弛まぬ研究と実践で、生徒、保護者、地域の期待にこれからも十分に答えていく所存です。なお、2年生では昨年度を大きく上回る評価となりました。高評価を得たクラスの指導事例からノウハウを抽出し共有を図ります。

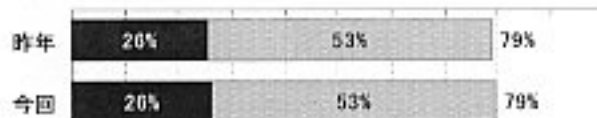
Q 学習指導は充実しており、学力向上に十分な成果を挙げていると思われますか。



昨年度に引き続いて前年を超える評価を頂きましたが、改善を更に加速させる必要を認めます。導入6年目となる授業評価アンケートでは、質問項目を変更し

て新たな評価観点を導入しました。これまでの取組を通じて一定の改善が達せられた項目に代えて、より直接的に生徒の学力向上に結びつくと思われる項目を取り入れ、学習指導の更なる充実を図りました。また、専門機関による結果分析に基づき行ってきた教科内協議でも、今まで以上に活発な議論が交わされています。

Q 進路指導が充実しており、生徒の希望進路の発見・実現に十分に役立っていると思われますか。



一昨年(肯定率70%)から大きな改善を見た昨年度の水準を維持するに留まり、更なる上積みには至りませんでした。学年別に見ると2年生では顕著な改善が見られましたので、まずは当期の実践を着実に来期に繋ぐことを徹底したいと考えます。また、1年生については指導を振り返って見直しを図るとともに早期に遅れを取り戻すことに注力します。なお、3年生は昨年時点(2年生のとき)の評価は低かったものの、巻き返しを図るこの1年間の指導が奏功して、昨年度の3年生の水準を僅かながら上回ることができました。

## 課外活動・学校行事

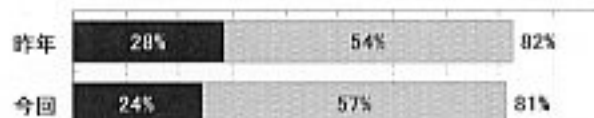
部活動における指導と学校行事は、ともに昨年度を僅かに下回る評価となりました。リーダーシップの涵養、協調性・社会性の獲得にも欠かせない活動であるため、抜本的な指導の見直しを行い、あるべき指導と現状との差分を明らかにしてその解消に努めます。

Q 生徒の部活動に対して、クラブ顧問は熱心に指導していると思われますか。



部活動についての肯定率は、学校評価導入時点での74%は超えておりますが、昨年の結果を僅かながら下回ってしまいました。今後の充実を求める項目として学習指導、進路指導に次いで多くの保護者が選択した項目であり、多くの生徒にとっても学校に通う意欲の源泉であるとの認識しております。優先順位をしっかりと意識しつつも、必要な改善には遅滞なく取り組んでいく所存です。

Q 学校行事が充実しており、行事についての様々な工夫や学校の姿勢が強く感じられますか。



大きく実施方法を変えた昨年度と同様に、生徒会活動と連携することで、多くの生徒が当事者意識を持って参加できたようですが、2年目となる今年は、更なる拡充への期待には十分に答えられなかったようです。獲得を期待する資質としてリーダーシップを挙げた回答が増えたこともあり、学校行事はその涵養の場であると改めて位置づけした上で、所与の環境のもとで最大限の効果が得られるよう努力いたします。

## 安全管理、情報発信

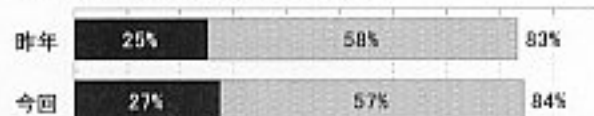
学校からの情報発信、保護者・地域からの声への対応、安全への取組については、昨年度をも更に上回る高い評価を頂戴いたしました。

Q 登校・下校時指導や緊急時メール連絡網など、生徒の安全に対する学校の取り組みは十分だと思われますか。



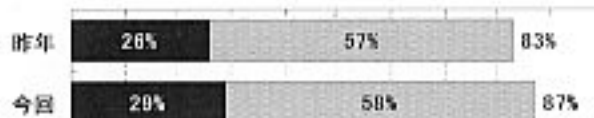
引き続き評価を高め、肯定率が80%を超えるところまでできました。毎日の登下校指導は、生徒とのコミュニケーションの機会として、“生徒と先生が一体となった学校”、“落ち着いた学校”の実現に役立っています。今後も危機管理には十分に留意するとともに、社会の変化に伴って新たに生じるであろう様々なリスクにも、学校を挙げて迅速に対応して参ります。

Q 学校からの連絡文書や懇談会・授業公開などを通じて学校の様子は十分に伺えますか。



「どちらかといえば」が付かない肯定が2ポイント増えました。特に3年生での評価向上には目覚ましいものがありました。ご家庭とのスクラム作りにも大きく寄与し、やや立ち遅れが見られた「希望進路の発見・実現」での巻き返しに繋がったものと思われれます。必要とされる情報が何かを的確に把握するとともに、これまで以上に積極的な発信にも努めて参ります。

Q 学校は、保護者や地域の要望・意見に対して誠実に対応してくれますか。



高い評価を頂戴しましたが、教員間で差異のない公平・誠実な対応に一層近づくべく、努力を継続します。

## ご家庭との連携

教育が実を結ぶにはご家庭と学校との連携が欠かせないと考えます。高校では珍しいPTA組織である育友会が設置されているのもその理念の現れです。

Q 進路希望や将来の職業、あるいは学校での様子などについて、家庭で話をすることはありますか。

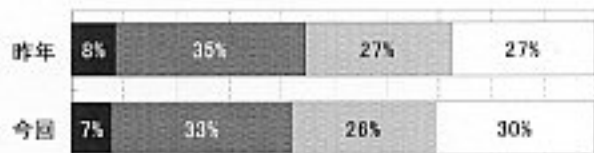
- 話す機会がよくあり、保護者も関心をもって会話に臨んでいる
- 話す機会はあるが、あまり突っ込んだ話にはならない



進路や学校生活について生徒が悩みを一人で抱え込むことがないように、校内でも担任を中心に対話の機会を増やすよう取り組んでおりますが、生徒が“自分の今と未来”に正しく向き合うには、ご家庭での対話が欠かせません。人生の先輩として、お子様を最もよく知る存在として、話に耳を傾け、積極的に語りかけていただきたく存じます。前回と比べて1年生と3年生で評価が下がりました。学校としては、対話のきっかけとなるような話題、話し合いの土台を作る情報などの提供と発信に解決策を求め、今後も取組を進めます。

Q 育友会(大阪高校保護者と教職員の会)の活動に関心を持っていますか。

- たいへんに関心があり、内容も分かっている
- 関心はあるが、内容についてはよくわからないことが多い
- あまり関心はないが、活動の内容はある程度知っている
- あまり関心はないし、活動の内容もよく知らない



関心も認知も、回を追う毎に低下が続いています。活動の周知や広報の強化だけでは改善には限界がありそうです。活動のあり方そのものを学校の教育活動との関連を高める方向で、見直していきたいと考えます。

## 総合評価

教育活動全般に対する総合的な満足度を直接的に量る指標のひとつとして、「入学させてよかったと思うか」という質問を立てて毎回お尋ねしています。

Q お子様を大阪高校へ入学させてよかった(知り合いや親戚にもこの学校を勧めたい)と思われませんか。



肯定的な回答が占める割合は、学校評価初年度の82%から着実に向上を続け、9割を目前にする水準にまで到達できました。

学校に対するイメージとのクロス集計では、「一人ひとりを大切にしてくれる学校」「子どもたちがいきいきと学習や部活に励んでいる学校」「個性を見出し、伸ばしてくれる学校」を選んだ保護者からの満足度が特に高いことがわかりました。

また、学年が上がるごとに但し書きなしの満足が増えていることから、入学から卒業までの3ヵ年に亘る教育の成果を以って「本校を選んでよかった」との評価をいただけていることが窺われます。今後も、社会の動向に眼を配り、地域の声に耳を傾けるなかで、教育目標の更新と定立に当たり、その目標の実現に全力を挙げて取り組むこととお約束いたします。

## 保護者ニーズの所在、ほか

Q 保護者会やクラス懇談会で取り上げてほしいこと、充実を望むことは何ですか。

「進路や入試に関する情報」が昨年度に引き続き最も多く選ばれ、これに続いたのは「子供への接し方や行動観察の方法」でした。この2つは、教員対象のアンケートでも、伝達に注力すべき事柄の上位を占めており、保護者と教員との意識は一致しています。両者がスクラムを組んで子供の成長を支えていくことができそうです。一方では、「教育活動の実態報告」と「生活の習慣作りに向けた保護者からの働きかけ」については、教員側の伝えたいという意識の方がかなり強く出ています。保護者の方に興味を持っていただける内容と価値を見出してもらえらるメッセージとを発信し続けることで如上の意識乖離の解消を図ります。

Q お子様は意欲や学校に進んで通う姿勢を示していますか、その対象を2つ選んでご回答ください。  
「クラスでの友人とのふれあい」と「クラブ活動」が

昨年度に引き続き最上位を占めたばかりか、その選択率は更に上昇し、他の項目との差が拡大しました。教科の学習が選ばれる回答は3年生を中心に増えていますが、学校側が意図する水準とはまだ大きな隔たりがあります。入学後の早い時期から将来を見据えて目的を持てるような指導と、その実現への努力に喜びを見出せるような学びの場の創出とに、全力を投じます。

Q 今後、子どもに獲得させたい資質はどれですか。

三年連続のトップ「将来を切り開いていく力」(56%)です。「自主自立の姿勢」(48%)がやや比率を下げ、代わって「協調性・社会性」(42%)が増えました。これらに「責任感」(38%)と「学力・知力」(47%)を加えた5項目が上位を占めています。これらの結果は、学校に向けられた期待の所在を端的に示すものであり、学校として最大限の努力と工夫を持って実現に努める所存です。まずは、これら5項目について、学年毎に目指すべき到達状態をそれぞれ明文化して校内に共有することを先行させ、各学年での指導について効果測定や妥当性の検証が客観的に行えるようにいたします。

Q 今後、学校に更なる充実を求めたいものは何ですか。

引き続き、「進路指導や就職支援」(70%)と「学習指導や学力向上」(68%)の2つが飛び抜けて高い選択率でした。学校が改善資源を集中的に配分している項目とも合致しています。前述の通り、学習指導は着実に改善が進んでおりますが、進路指導は足踏みを早期に抜け出して取組の加速を図る必要があります。進路意識の段階的形成という発想に基づき、各学年における進路指導(特に進路希望を作る段階の指導)の計画を抜本的に作り直していく予定です。

Q 本校の特徴としてどれが当てはまりますか。

選択が多かったのは、「子どもたちがいきいきと学習や部活に励んでいる学校」と「一人ひとりを大切にしてくれる学校」でした。本アンケート導入時から一貫しており、本校の良さとして確立されたものと考えます。今後の充実を求められている学習指導、進路指導の改善を図る取組においても、こうした良さは失われないよう十分に注意して臨みます。

大阪高校は今後も改革を続け、地域の期待に応える学校、在校生・卒業生が今以上に誇りに思える学校を目指します。今後ともご支援とご協力をお願いします。

本報告書へのご意見・ご質問は下記にて承ります。  
TEL:06-6340-3031 FAX:06-6349-3719  
保護者による学校評価アンケート担当: 副校長 岩本信久